

持続可能なまちづくり

あるべき姿(概ね30年後)

- イノベーションを創出する基盤となる都市と、適度な開放空間があり、心身を癒してくれる自然が近接した本県の強みを生かして、多様な価値観やニーズを持つ様々な世代の人々が、都市と自然を行き来し、大都市圏では得られないゆとりと安心を実感し、それぞれの仕事と暮らしを楽しむライフスタイルを実現させています。
- 県全体の発展を牽引する広島市や福山市を中心に、沿岸部や山間部の拠点都市が交通や情報ネットワークで結ばれ、相互に連携しながら発展しています。また、県民の日常に不可欠なサービス機能が身近に充足するとともに、デジタル技術やデータなどを活用した、安心して快適に暮らすことができる持続可能なまちづくりが実現しています。

目指す姿(5年後)

地域特性や規模に応じた拠点ごとに必要な都市機能の集約や災害リスクの低いエリアへの居住の誘導が進むとともに、移動の需要と供給に応じて拠点間が最適な公共交通ネットワーク等で結ばれた、県民の安全・安心で豊かな生活を支える「持続可能な集約型都市構造」の形成が進んでいます。

都市機能や居住が集約されたエリアでは、効果的かつ集中的にデジタル技術やデータなどを活用して、質の高いサービスを享受できるとともに、イノベーションを創出する交流の場と心身を豊かにする自然が近接している広島の強みやそれぞれのエリアの特色を生かした、ゆとりと魅力あるまちづくりや居住環境の創出が進んでいます。

広島市都心部においては、利便性の高い公共交通ネットワークの構築や国内外からの来訪者等が気軽に憩えるデザイン性に優れた公共空間の整備等により、人が中心となる都心空間と回遊ネットワークが形成されています。また、大規模オフィスやコンベンション施設、ラグジュアリーホテル等の国際水準の都市機能の強化やイノベーションを生み出す多彩な人材の育成と集積が進んでいます。

備後圏域の玄関口である福山駅周辺においては、都市型産業の集積や遊休不動産を活用したビジネスモデルの構築などにより、ビジネスの拠点性が強化され人材が集積されるとともに、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出に向けて、人の集まる拠点の整備や道路・広場等の整備などが進んでいます。

指 標

居住誘導が進展している 市町数※1

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
—	12市町 (R7)	20市町

目標設定の考え方

県内全域で持続可能な集約型都市構造を実現するためには、立地適正化計画を策定する全市町で居住誘導が進む必要があることから、立地適正化計画策定対象の20市町を目標に設定した。

公共交通の機関分担率

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
18.7% (R2)	19.9% (R6)	20.0%

目標設定の考え方

県内の通勤通学時公共交通利用者数の県内15歳以上人口に対する割合を現状値から増加させ、公共交通等の持続的な運行維持を図ることを目指して設定した。

防災上危険が懸念される 地域の居住人口

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
120千人 (R2)	108.9千人 (R6)	100千人

目標設定の考え方

安全・安心で豊かな生活を支える「持続可能な集約型都市構造」の実現に向けては、防災上危険が懸念される地域の居住人口を減少させることが重要であることから、現状値の約9割を目指して設定した。

自然と都市の魅力を享受し、 質の高い暮らしができると 感じる県民の割合

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
62.6% (R1)	53.2% (R6)	70.0%

目標設定の考え方

自然と都市の調和した質の高い暮らしを享受できている県民の割合を現状値よりも高めることを目指して、意識醸成が図られている状態として70%を目標として設定した。

※1 居住誘導区域内外の人口密度を比較

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 人口減少と少子化・高齢化が進行し、都市の中心部では空き地や空き家がランダムに発生する都市のスポンジ化が進み、郊外では拡散した低密度な市街地が形成されることにより、日常生活のサービス水準の低下や、公共交通ネットワークの縮小などが懸念されるため、集約型都市構造の形成に向けて取り組む必要があります。
- 拡散した低密度な市街地の一部は、土砂災害警戒区域等の災害リスクの高い区域に拡がり、頻発する大規模災害に対して脆弱な都市構造となっており、災害リスクの低い区域への居住を誘導する取組を推進する必要があります。

用語解説

居住誘導区域…都市再生特別措置法に基づき市町が策定する立地適正化計画において、人口減少の中にあっても一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう、居住を誘導すべき区域として定める区域。
防災上危険が懸念される地域の居住人口…県内の土砂災害特別警戒区域内の居住人口。現状値は令和2年国勢調査データを基に推計。

- 多様な価値観やニーズを持つ様々な世代の人々が「住みたい」「働きたい」「訪れたい」と思える広島ならではのまちづくりや居住環境を実現するため、地域特性や既存の地域資源を生かしたゆとりと魅力あるまちづくり、居住環境や都市空間の創出に取り組む必要があります。
- 人口減少と少子化・高齢化が進行し、行政サービス及び生活水準の低下や公共交通ネットワークの縮小などが懸念されるため、県民生活の利便性・快適性の向上に向け、各地域特性に応じた地域課題を解決するためデータと新技術を活用したまちづくりに取り組む必要があります。
- 魅力的な都市空間の創出のためには、エリアごとのグランドデザインに対応した開発など、地域の方々が主体となって将来のまちの姿を描き、共有しながら、まちづくりを行うことが重要であり、地域主体のエリアマネジメントの体制をつくり、活動の充実を図る必要があります。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

① 機能集約された都市構造の形成

地域特性に応じて医療や商業施設等にアクセスしやすい都市構造の形成に取り組むとともに、都市近郊の住宅ストック等の活用を促進し、利便性の高いエリアへの居住誘導を推進します。

② 交通基盤及びネットワークの強化

集約された拠点内及び拠点間を結ぶ公共交通ネットワークとそれを支える交通基盤の強化に取り組みます。

③ 災害に強い都市構造の形成

災害に強く、安全・安心に暮らせる持続可能な都市構造の形成に取り組みます。

④ 地域と連携し、地域の特性を生かしたまちづくりの推進

多様な主体と連携し、ゆとりと魅力ある居住環境の創出や魅力ある建築物の創造、空き家の活用促進など、地域特性や既存資源を生かしたまちづくりを推進します。

⑤ データと新技術を活用したまちづくり(スマートシティ化)の推進

県民生活の利便性・快適性の向上に向け、都市や交通などにおける各地域の特性に応じた地域課題を解決するため、関係市町とまちづくりの方向性を共有しデータと新技術を活用したまちづくり(スマートシティ化)を推進します。

⑥ ゆとりと魅力あるまちづくりの推進

地域の特色を生かしたウォーカブルなまちづくりや、公園・緑地の充実などのゆとりある空間を形成する取組により、多様な価値観やライフスタイルに対応できる持続可能なまちづくりを推進します。

⑦ 人を惹きつける魅力ある都心空間の創出

広島市都心部及び福山駅周辺において、ハード・ソフト両面にわたり、地域の良好な環境形成や地域全体の価値を維持・向上させるための活動などを通じて、人を惹きつける魅力ある都心空間の創出に取り組めます。

重点項目に関する主な取組

- 地域の特色を生かしたウォーカブルなまちづくりや、公園・緑地の充実などのゆとりある空間を形成する取組により、多様な価値観やライフスタイルに対応できる持続可能なまちづくりを進めます。あわせて、人を惹きつける魅力ある都心空間の創出を進めます。